

2026.02.01. 神の救いの義 パート2
ローマ人への手紙3章21節から26節

Mac 牧師

一緒に祈りましょう。お父様、あなたの御名を賛美します。主よ、イエスがあなたの御名です。主よ、この時間を感謝します。主よ、この教会には、牧師が1人だけでなく、3人いることを感謝します。彼らをあなたの聖霊で満たし、勇気を与えてくださいませんか？彼らにその勇敢さを与えてください。主よ、彼らの思いに平安を、絶え間ない平安をお与えください。彼らがあなたの御言葉を語るとき、主よ、あなたが彼らを見守ってくださいますように。私たちは学びに来ています。私たちが必要とするたびにあなたがご用意しておられるものを学びに。主よ、あなたの御名を祝福します。そして、御言葉の中で共に過ごす時間を感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

主を褒め称えます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。では教会よ、おはようございます。(会衆：おはようございます。) 皆さんがここにいてくださって本当にうれしいです。J.D.ファラグ牧師の代理で、カルバリー・カネオへによろしく。オンラインで参加の方も歓迎します。訪問者の方々が、ここカルバリー・カネオへで受ける愛と温かさで、すでにこの上ない祝福を受けておられますように。また後でも、引き続き皆さんと親睦を深められることを楽しみにしています。次回の祈り会のお知らせです。今週の火曜日、2月3日午後7時から、この礼拝堂で行います。ご都合がよければ、ぜひ教会体の祈りにご参加ください。一緒に祈りましょう。共に祈る時間を楽しみにしています。時期的に、人々は多忙です。皆、すべきことがあります。だから、来られなかったとしても、私たちのことを考えて、私たちがあなたのために祈るように、私たちのためにも祈ってください。また、なぜあなたがここにいないのかを祈り、そうして・・・😞😞😞何が言いたいかわかるでしょ？ 😊😊😊ほんの冗談です。一部はね。いやいや、聖書が教えるように、あなたがどこにしようとも、絶え間なく祈ってください。祈りは、私たちが持つ強力なツールなのに、あまり活用されていません。私たちには大きな神がおられるのですから、大きなことのために祈りましょう。続いて、ケリー・ファラグの人生と、永遠の命のお祝いについてお知らせします。今度の土曜日、2月7日午前11時から、この教会でします。その後昼食会もあります。オンライン・チャーチにも、その礼拝の様子はすべてハワイ標準時間午前11時から、JDFarag.orgのウェブサイト、モバイルアプリ、[Roku](https://www.Roku.com)、ソーシャルメディアプラットフォームでライブ配信します。あなたが旅で島を訪れるのならもちろん、この人生のお祝いに来てくださるのは大歓迎です。参加される方は、早めの10時に来て、事前に交わり、この必要な時にJ.D.牧師とご家族をサポートできるようにしてください。これに加えて、J.D.牧師は、2月12日(木)から説教壇に戻ります。「ゼカリヤ書」の聖書の学びを再開する前に、妻の死について率直に語り、「エゼキエル書24章15節から27節」で題材のメッセージをします。また、2月15日(日)から、J.D.は、「聖書預言・アップデート」と「説教メッセージ」を再開、オンラインチャーチのためにも全てライブ配信します。忘れないでくださいね。彼の復帰が期待されていて、彼が戻ってきてくれることに感謝しますが、状況が違っていただけなら・・・ですから、私たちは彼とご家族のために絶えず、祈り続けましょう。想像できるでしょうが、これは長引く影響なので、彼らは祈りが必要です。では日曜日の朝は、礼拝が2つあります。これは第二礼拝です。この第二礼拝では、「ローマ人への手紙3章」を再度ご覧ください。21節から26節までをもう一度読みます。この聖句を朗読するのに可能な方は、ご起立ください。そのあと祈ります。「ローマ人への手紙3章」、21節から、神の御言葉をお読みします。

— ローマ 3：21 —

しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

— ローマ 3：22 —

すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

— ローマ 3：23 —

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

— ローマ 3：24 —

神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

— ローマ 3：25 —

神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

— ローマ 3：26 —

すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。

神に祈り、この時間への祝福を願い求めましょう。

愛する天のお父様、改めて、あなたに感謝を捧げます。あなただけがお出来になるように、私たちとここで出会ってくださいますようお願いいたします。私たちは、あなたの御言葉を学び、あなたに近づくために、聖書全巻があるのがとても光栄です。それが、私たちが求めていることです。でも、私たちだけではできません。あなたに教えていただきたいのです。ですから、私たちはあなたに、いと高き知恵に拠り頼みます。共に過ごすこの時間、私たちは自由にあなたに近づき求めます。私たちがあなたの知恵を求めるから、あなたが私たちを尊重くださり、祝福くださることを知っています。ですから主よ、私たち一人一人の前を行かれ、あなたの御力と強さによって、独特なご方法であなたの真理の御言葉を語ってください。キリスト・イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

それでは、主を褒め称えます。ご着席ください。では今朝は、「ローマ人への手紙」の節ごとの学びを続けます。第二礼拝は、『神の救いの義』と題した御教えのパート2です。第一礼拝でもお話ししたように、今日は3章を本当に学び終えるつもりでした。でも見ての通り、主はそんなことでは済まされませんでした。それには理由があるんですよ。というのも、今話している神の義がどれほど素晴らしいかは、私たちが全時間を費やすに値します。なぜなら、こんな重要なものを急ぐなど、主に喜ばれないからです。このことを理解せねばなりません。私はその場に座りながら、「全部やりますよ〜!!」「いやだめだ。」間違いなく、何らかのそういう経験あられるでしょ？ でも私たちがこれを学び進めていく中で、今日私たちが論じようとしている神の御言葉、神の栄光の側面がすべて浮き彫りになるよう祈ります。そして私の希望は、私たちが主の栄光の側面を見るだけでなく、主の栄光が終始続くことです。では、第一礼拝で述べた通り、今日から「ローマ人の手紙」のセクション3に入り、このセクションは、神の義の提供について詳しく語ります。

画面に出ているように、その主たる、特に信仰に関してが、3章21節から4章の終わりまで続きます。でも、神の義の備えと肯定的影響は、さまざまな形で8章まで示され続けます。事実、8章は、ご存知の方も多と思いますが、キリストを信じる者としての完全な励ましのため、必ず読むべき章です。特に、私たちが罪の性質に苦労が続く中で。私たちは、完全に栄光に入るまで、常にこの罪の性質と闘います。でも8章で思い知らされるのが、

「こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」(ローマ8:1)

この章で私たちを慰める御言葉は、それだけではありませんが、とても力強い御言葉で、私たちが常に備えるべき御言葉です。だって、誰がやって来るかご存知でしょ？ 敵ですね？ またはその手下。罪の本性の犠牲になった私たちを非難しようとやって来ます。私たちはそのような非難を、具体的に神の御言葉で防衛することができなければなりません。「ローマ人への手紙8章1節」は、私たちにそれをしてくれます。第一礼拝で、続けたポイントが、神の御目に義とされるとはどういう意味なのか？ それを学びながら、人が神の御前で義とされるためには、少なくとも3つの行為が必要だと結論づけました。まず、「人は神の正しい裁きを認めねばならない」そこから、「人は、神の正しい裁きを受けねばならない」法廷で裁かれるのと同じで、神の義によって義とされる。なぜなら、忘れてならないのは、今話しているのは、「神の御目に義とされるのは、神ご自身の基準に基づいてのみ認められる義。」それが私たちにとって理解すべき重要な鍵です。そして、その神の義の基準によって、今、学んだような資格を満たすすべての人が義と認められるのです。そこから、「義認」に関するシンプルな定義を見てみました。そうして、「義認」という語彙が法律用語だという事実に注目しました。そして、それが事実である以上、人を正当とするか非難するかのいかなる決定にも、律法が付随する必要があります。律法があることによるのみ、公正な判決が下されるからです。ついてきていますか？ ですから、キリストが律法を成就されたこととは、イエスが世の罪を背負って十字架上で死ぬことが人類を義とするために、なされたことで、なさらなければならなかったことなのです。忘れないでいましょう。キリストは虚偽の告発を受けられました。覚えていますか？ それによって、神は世の罪をイエスに付与されました。それで、神の御子が殺されるのを許すことができるのです。罪が死をもたらすから。同時に、イエスを義としながら死を許し、死からよみがえらせることができるのです。イエスに罪はなかったから。これからわかるように、人類がそのような義認で贖われるためには、人類と同じ、人によるものでなければなりません。人間の姿という意味です。完全に神聖であられる神にはそれができなかった。それは神の子である人の子、イエス・キリストでなければならなかった。完全な人で、完全な神だという意味です。そうして、22節で学び終わりました。そして、全員でなくても皆さんご存知の通り、イエス・キリストの福音を信じるすべての人に神の義が与えられるのは、イエス・キリストを信じる信仰による。"すべて"とはみんなです。そこに違いはありません。その"違いはない"とは、ユダヤ人とギリシア人だけではなく、その違いがないとは、私たち全員が、罪の遺伝的欠陥とその受け継ぎの影響を受けている事実があるからです。私たちの誰しもが。ここが今学んでいる箇所です。主の祝福と許可をいただいて、これらの聖句について詳しく説明します。そうしながら、「贖罪」に時間を費やします。キリストが、神の新しい種類の憐れみで可能になれる「罪の贖い主」の意味と共に、キリスト・イエスを信じるすべての人のために、公正な義人

であることの。教会よ、よろしいですか？ 了解です。ということで、今日の 23 節 24 節、神の御言葉をお読みします。

ー ローマ 3：23 ー

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

ー ローマ 3：24 ー

神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

OK。ここで、使徒パウロは、全人類が罪に関してどのような立場にあるのか、そして神の御目から見て人類がどんな立場なのか、まったく疑いの余地のないことを述べます。留意ください。神の栄光が基準です。それがわかりますか？ 興味深いのは、使徒パウロが御霊によって、神の栄光と私たちの罪を対比させています。なぜなら、これが語るのは、私たちは初めから神の栄光にあずかるはずだった。でも私たちが知っているように、罪のために人類はそのようなことができなくなった。覚えておいてください。私たちは皆、神の栄光のために、純粋な罪のない状態で創造された。間違っただけではないのは、完了したものとして、「すべての人が罪を犯した」という過去形の表現。そのため、その後「だから神の栄光を受けることができず」と書かれているのです。この「受けることができず」は、絶え間ない、現在の現実です。それは「常に遅れをとる」「届かない」という意味があります。常に。ある解説者がこう話すのが好きです。「我々が神の栄光に届かないのは、人が知る限り最も高い山に登り、手を伸ばして星に触れようとするようなものだ。」それくらい、私たちは届かないのです。ね？ それは狂気の沙汰です。エベレスト登頂のための私たちの努力のすべてという意味。でしょ？ 頂上まで。「やったぞ～！！」そして私たちは手を伸ばす。誰も星に近づきも、届きもしない。すべて無駄。そして、神の栄光となると、主の栄光は絶え間なく続く。悲しいことに、私たちの罪もまた同じです。つまり、私たちは常に遅れをとる、決して届くことができない。自分の罪のせいで。私たち理解していますか？ 罪が現実となったとき、私たちはようやく向き合おうとするから、そうすれば、解決策にきちんと焦点を合わせることができる。だから、使徒パウロは、私たちの墮落を隅から隅まで詳述するのに多くの時間を費やしたのです。私たちがどれほど絶望的で神の義を必要としているかに。だからこの時点で、自分がいかに罪深いかを聞かされ、ほとんど疲れ果てているはず。疲れ果てていませんか？ 自分が何をしても、これが限界です。そうなるように私たちに仕向け、「私がいかに不義で罪深い人間であるかを語るのをやめてください。どうすれば神と正しい関係になれるのか教えてください。」と。ええ！ もちろん！ それがパウロのポイントです。22 節を見返すと、パウロはすでに、キリスト・イエスを信じる信仰が神の義をもたらすことを表明しています。そして 24 節を見ると、使徒パウロはこれを繰り返して、伝える内容の重要性を物語ります。というのも、留意すべきは、信仰がキリスト・イエスに置かれたときに何が起るかの、より多くの詳細が提示されているのです。

1 つ目、この「義認」が神の恵みによって与えられることを理解し始める。それでどうなるのか？ そうすることで、人間の努力は一切必要なくなります。頭からそれを取り除きなさい。つまり、人間は、その状況から完全に排除、人の子(イエス) だけが残る。そして、24 節の終盤には、キリストによる「贖い」という言葉があります。先ほど述べたように、「贖罪」と「贖い主」について話す時間を費やし、祈りつつ、旧約聖書の聖徒たちの救いに関してしばしば出てくるいくつかの質問に答えます。そこでまず、全員が同じスタートラインに立てるように聖書の立場から「贖罪」の定義を確認しましょう。ここで「贖罪」という語彙は、「身代金の支払いによる解放」という意味だとわかります。ご存知の方も多いと思いますが、この用語は商業や市場から来ています。文字通り、「買い取る」「買い戻す」という意味です。また法的観点も伴いながらの奴隷を自由購入する意味にも繋がります。これが、今伝えられている「贖罪」という語彙の意図です。つまり「贖罪」とは、合法的に刑罰を取り除くために代償を支払うことです。義が行われるためには、律法が実施されなければならないことを忘れないでください。そして神学的見地から、人間の道徳を扱おうと、「罪」は「罰則」や「負債」です。その「罪」が償われる唯一の方法は、死に至るまで血を流すことです。この真理は、「レビ記 17 章」、11 節に記されています。神の御言葉が仰られます。

ー レビ 17：11 ー

実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。

この記述が、モーセの律法に関連付けられていても、この概念は、アダムとエバが神に対して罪を犯した時に起こった最初の血を流す行為でわかります。彼らがいちじくの葉で身を隠した時を覚えていますか？

ね？ しかし、神は、彼らに動物の皮を着せられました。その行為から、最初の犠牲、つまり死に至るまで血を流すことが、彼らに衣を着せるために起こったと結論づけられます。彼らの罪が赦されるために覆うけれど、償って、取り除かれるためには完全に支払われていない。教会よ、わかりますか？ 私たちが話したことを思い出してください。贖われるためには、近親者、つまり同族の誰かによってでなければならない。

(レビ 25:25 参照)

世がどう思おうと、私たちは動物とは親類ではありません。聞いてます？ 彼らが何を考えるかはご存じでしょう。以前はそう思っていた人もいたでしょう。私たちは動物とは親類ではありません。私たちはアダムや人類と親類です。ですから、私たちはアダムか、あるいは人類の中の誰かによって贖われなければならないのです。でも、誰でもいいわけではありません。その人物は、控えめに言っても特別な資質がなければならない。永遠の資質：罪がなく、その血は、永遠に私たちの身代金とすることができる。神を褒め称えます。その誰かとは、イエス・キリストです。イエスは私たちの近親の贖い主です。つまり、全人類を贖うために必要なすべての資格があるのです。そして、近親の贖い主を信じる信仰こそ、それを信じる者皆を、神が義と認められる。

第一礼拝で、アブラハムと彼の信仰について話しました。でもこの信仰は、アダムに最初から示されたものだと説明したいと思います。では皆さんが、私を石打ちで殺す前に、私たちはこの記述を何度も何度も読み返してきましたよ。でも祈りながら、今日論じていることを踏まえて、また違った見方ができますように。ですから、どうかお付き合いくださってご辛抱ください。サッと見ていきますので。何のことかおわかりでしょう？「創世記3章」、12節からズラッと21節までを読みます。聞こえました？ アダムの信仰の完全な文脈を理解するためそうします。それが今の話ですからね。これは本当に見過ごされていると思うので。では、教会よ、いきますよ～神の御言葉をお読みします。

一 創世記 3：12 一

人は言った。「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

なるほど。この時点を注目ください。彼女は何と呼ばれていますか？「女」いいですか？「この女」です。よろしい。いや、そういうことを言いたいんじゃないんです。あなたが何を考えているか……「女よ、よろしい。」

一 創世記 3：13 一

神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。」

一 創世記 3：14 一

神である主は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりもろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる。」

一 創世記 3：15 一

わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫（種）と女の子孫（種）の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

繰り返しますが、「女」について話しています。彼女はそう呼ばれていますね？ いいですか？よろしい。

一 創世記 3：16 一

女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。……

余談ですが、神は受胎を何と呼んでおられますか？「いのち」です。これ、わかりますか？ 余談ですが、そのことを言うておきます。受胎はいのち。（画面に向かって）受胎はいのち。違う言い方をします。受胎はいのち。

……あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋慕うが、彼はあなたを支配することになる。」

一 創世記 3：17 一

また、人（アダム）に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。」

一 創世記 3：18 一

大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。

一 創世記 3：19 一

あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちに帰るのだ。」

これ全部聞こえますか？ これはアダムが今、言われていることです。いいですか？ では、私たちがその場にいたところを思い浮かべてみましょう。いいですか？これは今、神が仰ったのです。「僕は土のちに帰るの?? 見てよ。自分がしたことが信じられない。皆さんいいですか？ さあ、この全てがあって、20節にある御言葉に注目しましょう。神の御言葉をお読みします。

一 創世記 3：20 一

人（アダム）は妻の名をエバと呼んだ。彼女が、生きるものすべての母だからであった。今や、その女は名前を得た。

「エバ」「生きるものすべての母」というフレーズは、全人類の母であること以上です。これは、アダムもエバと同様に、贖い主が来られるという信仰を信じた事実を語っています。なぜなら、贖い主を信じる者はみな生きるからです。これがわかりますか？ 女は名前を得た。つまり、その悪い知らせを聞かされた後に、私がこの子に名前をつけたいと思う？ 私なら別の名前をつけるよ。😞😞 皆さん、ついてきていますか？ そして、次のことにも注目ください。神が仰ったことを信じるというこの信仰行為が、21節の前にあるのです。読みます。

— 創世記 3：21 —

神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。

それがわかりますか？ わかりますか？ 神は彼らのために皮のチュニックを作られました。主はその存在を語ってはおられません。明らかにできたはずですが。しかし、主はそれらを作り、2人を覆われた。そして、この覆いの行為は、彼らが来たるべき約束を信じたとたん起こった。教会よ、点と点が繋がりますか？ 私と一緒にと言ってください。大勢が一緒だと。でもここで主が、私たちに何を示しておられるのかわかりますか？「信じる」と私たちは解放され、神の贖いによって身を包む。繰り返しますが、「贖罪」は常に人類への計画でした。「ヨブ記 19 章」、23 節から 27 節に書かれていることも考えてみましょう。神の御言葉をお読みします。

— ヨブ 19：23 —

ああ今、できることなら、私のことばが書かれ、書物に記されればよいのに。

— ヨブ 19：24 —

鉄の筆と鉛によって、いつまでも岩に刻みつけられればよいのに。

— ヨブ 19：25 —

私は知っている。私を贖う方は生きておられ、ついには、土のちりの上に立たれることを。

— ヨブ 19：26 —

私の皮がこのように剥ぎ取られた後に、私は私の肉から神を見る。

— ヨブ 19：27 —

この方を私は自分自身で見ると。私自身の目がこの方を見る。ほかの者ではない。私の思いは胸の内で絶え入るばかりだ。

では、来たるべき贖い主への確信について言うなら、これこそ確かな確信です。ヨブの言葉を聞きましたか？ つまり「この方を私は自分自身で見ると。私自身の目がこの方を見る。ほかの者ではない。そう、私の肉が滅ぼされた後、私が彼に会うのだ。」これは神の約束を信じることで、おもに、来たるべき贖い主を信じる者は皆、最後にそのお方に会えるということです。それだけでなく、永遠にそのお方と共にいる。そして、来たるべき贖い主によって、過去の悪から救われるということで、このことは、「創世記 48 章」、15 節と 16 節にも記されているとおりです。ここでは、家長ヤコブがヨセフとその子どもたちを祝福しています。神の御言葉をお読みします。

— 創世記 48：15 —

彼はヨセフを祝福して言った。「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神よ。今日のこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神よ。

— 創世記 48：16 —

すべてのわざわいから私を贖われた御使いが、この子どもたちを祝福してくださいませように。私の名が先祖アブラハムとイサクの名とともに、彼らのうちに受け継がれますように。また、彼らが地のただ中で豊かに増えますように。」

これ、わかりますか？ 私がここで強調したいのは、ヤコブは贖い主への信仰のゆえに、自分が贖い主によって贖われることを知っていたのです。さあ、モーセの律法が制定された後も、来たるべき贖い主についての信仰はさらに広く知られていました。ダビデ王はこのことをよく知っていました。「詩篇 19 篇」にあります。13 節と 14 節、神の御言葉をお読みします。

— 詩篇 19：13 —

あなたのしもべを 傲慢から守ってください。それらが私を支配しないようにしてください。 そのとき私は 大きな背きから解き放たれて 全き者となるでしょう。

— 詩篇 19：14 —

私の口のことばと 私の心の思いとが 御前に受け入れられますように。主よ わが岩 わが贖い主よ。

ここでもまた、この理解は知られていました。「贖罪」は、常に人類のための計画だった。信仰は、神の義を得るための手段である。神が信仰の対象そのものだからです。今日の 25 節、神の御言葉をお読みします。

— ローマ 3：25 —

神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を

明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

ここで使徒パウロは、キリストの贖いの御業に基づいて何が起こったかをローマにいる信徒たち、そして私たち全信徒のため、追加情報を提供します。私がマークしたこの単語にたどり着きました。「宥めのささげ物」新ジェームズ王訳にも、この単語は、「第一ヨハネの手紙2章2節」など、いくつかの箇所使われています。でも、ギリシャ語から翻訳されたこの単語は、新約聖書全体で2回しか使われていません。「ローマ人への手紙3章25節」と「ヘブル人への手紙9章5節」です。「ヘブル人への手紙」には、その語彙自体の意味ではなく直接の文脈のこの単語の直訳があります。この語彙をギリシャ語で見ると、贖罪が行われる場所、「贖罪所」、「宥めの座」です。皆さん、大丈夫ですか？これが、「ローマ人への手紙」で「宥めのささげ物」と語られるのは、「宥めの座」です。ご存知の方も多いでしょうが、画面に出ているように、「贖罪所」、「宥めの座」は、契約の箱の「宥めの蓋」の役割です。それは純金でできていました。1塊の純金で。純金は神性、王権、純潔、永遠の価値を表し、これらはすべてキリスト・イエスの特徴です。また、契約の箱の中には、イエスが成就された板碑の律法があったことも私たちは知っています。マナの壺は、命のパン、イエスが天から降ってきた。そして、芽を出したアロンの杖。その芽生えは、彼が大祭司に選ばれたことを意味しました。私たちの大祭司であるキリストの伏線でした。年に一度、大祭司は、契約の箱があった至聖所に入ります。その他のさまざまな儀式的任務とともに、大祭司は罪の贖いのために、「宥めの蓋」の前と上に血を振りかけました。その贖罪のおかげで、神の御怒りと裁きが人々から取り除かれ、律法を覆い隠す「宥めの座」が残されました。なので改めて、「宥めの座」は証しの律法を覆い、神の民を律法の非難の裁きから隠した。一方、血のいけにえを捧げることによって、律法違反の罪を覆い隠すことができた。「宥めの座（贖罪所）」は、その両方を引き受けてくれる。それは、神の公正な裁きへ保護する覆いで、宥めるもので、寛容・忍耐を生み出すものです。この「寛容」という語彙を今から見ていきます。でも私たちは神の御言葉が私たちのために描いておられる絵を見ているのでしょうか？なぜなら、このまま永遠に、キリスト・イエスは、「宥めの座」を表します。そして、契約の箱の上に置かれていた「宥めの蓋」にあった限界は、イエス・キリストが人の子として「宥めの座」を象徴される時、もはや限界はありません。律法は成就されたので、律法はもはや非難することはできません。そして、流されたキリストの永遠の血潮は、すべての罪が永遠に贖われたことを意味します。実際、専門的に言いたければ、罪はもはや問題ではないことに皆さんお気づきですか？キリストは死んで、その代価を支払ってくださった。罪は問題ではない。問題は、キリストを信じ、キリストに従うこと。教会よ、聞いてますか？では、今日の25節に戻って、その理解を持つと、使徒パウロが伝えていることが明確になるはず。キリストの血潮が、なぜこれほど力強いかわかるはず。血には力がある」という宣言は、驚くべき現実です。忘れないでください。いのちは血の中にあります。キリストの血潮ですから、永遠の命はその血の中にあるのです。だから、主の血は、一度だけ振りかけられたのです。その血が永遠のいけにえを象徴するもので、十字架上の完成された御業の決して衰えることのない血潮だからです。信じる者すべてが贖われたのは、主の血潮のおかげです。このことは、「エペソ人への手紙1章7節」にあります。神の御言葉をお読みします。

— エペソ 1:7 —

このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

もう一度言います。私たちは、キリストの血にパワーを見ます。罪を覆うのではなく、罪の赦しの力を。このことは、「コロサイ人への手紙1章」、13節と14節にもあります。神の御言葉をお読みします。

— コロサイ 1:13 —

御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

— コロサイ 1:14 —

この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

25節に関して、もう一つ見てもらいたい点があります。先ほど述べた「寛容・忍耐」です。お話しするのは、とにかくやってみますが、私がこの聖句を通して話すように、この聖句を読んでみてください。ポイントを得るために、言い換えます。この言い換えを最後まで聞いてください。よろしいですか？よかった。「神は、イエス・キリストの福音を信じるすべての人のために、イエス・キリストの血のゆえに、イエス・キリストを全人類の宥めの座とされた。そして、これは神の義を示すために行われた。正義が実行されなければならないから、有罪の者は罰せられ、無罪の者は解放されなければならない。というも、過去の時代に、明らかに正当に行われるはずだった神の罰則を、神は見逃してこられたから。でもその代わりに、神は、以前に犯した罪の多くを見逃すことを選ばれた。」これがわかりますか？この神の寛容の概念は、「使徒の働き17章30節」にも出てきます。神が人間の無知について仰るとき、以前は、それを見逃しておられましたね。覚えていますか？しかし今や、すべての人に悔い改めるよう命じておられます。なぜか？贖い主が来られたからです。そして、使徒パウロはここで、キリストが支払われた贖罪のゆえに神の寛容が

いかに完全に正当なのかを説明します。使徒パウロは今、これを確固たるものにします。今日の最後の 26 節、神の御言葉をお読みします。

ー ローマ 3 : 26 ー

すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。

改めて、これは、神の寛容と神が公正であられることの、最初に述べた結論です。神がなさったことを見てください。神は、私たちの裁判制度のような迅速な裁きを人類に与えることを選ばれませんでした。ええ、そうはなさいませんでした。言うまでもなく、真の生ける神は憐れみの神です。神の憐れみと神の裁きは対照的ではありません。違います。この真理は聖書全体を通して見ることができ、そのうちの 1 つは「詩篇」にもあります。116 篇 5 節、神の御言葉をお読みします。

ー 詩篇 116 : 5 ー

主は情け深く 正しい (義であられる)。まことに 私たちの神はあわれみ深い。

ですから、26 節で引き続き示されているのは、使徒パウロがこの節の最初の行で述べることそのものです。それは、神は義であられる。神の義。ですから、神はご自身の義を証明することに問題があると考える人がいたら、神の、いわゆる神のジレンマは、完全に解決されました。そして、この学びのタイトルのように、神の義は、救いの義。同時に、正当な義。あなたの義のわざは 永遠の義 あなたのみのおしえは まことです。(詩篇 119 : 142)

あなたのさとしは 永遠に義です。私に悟らせ 私を生かしてください。(詩篇 119 : 144)

今から読む解説者と、まさにこのことについての彼の洞察力には感謝したいと思います。読みますのでお付き合いください。彼はこう指摘しました。「人類は、正しいことが正しくなかった時代を想像することができない。義が美德でなかった時代から、我々は、義と正しさが永遠であることを理解しなければならぬ。・・・(どうです?)・・・そして、神は永遠である唯一のお方である以上、正しく公正は、すべて神からもたらされる。」私たちは、正しく、公正は、神のご本質の一部だと知っています。聖書の至る所に見られるように、ユダヤ人が記し、彼らは人類の歴史を通して、神の正しい裁きをはっきりと理解していた。彼らは神の義の啓示や託宣を受けたので、神の義の掟を人々に教えるように命じられた。この解説者の続きを聞いてください。引用します。

「これらの掟は、人間の生活に適応されるべき義の宣言だ。昔の預言者たちは皆、義の伝道者であった。そして施行される罰則はすべて、義の制裁だった。そして、これらの犠牲はすべて、継続的な義の必要性を永続的に思い出させるものだ。その約束はすべて、全人類に明らかにするお方を指し示す。神の義の美しさと力を.....そうして、その方が来られたとき、名付けられた。”正しい方、イエスキリスト。主は私たちの義。”その生涯においても、その死においても、その肩書き通り、今まで明らかにされたことのない神の義を人間に明らかにされた。」

パワフルです。キリストの死は、神ご自身の義を立証し、神はすべての信者を神の御目に義と宣言することがお出来になる。すべての信者と言うのは、すべての信者です。私たち全員です。それは、キリストのもとに来る過去、現在、未来の罪びとです。主の贖いを信じる限り、決定事項です。ね? そのことに、神を褒め称えます。一拍手ー そうです! 神にご栄光を。神の法廷制度には、二重の有罪というものはありません。私たちが主のもとに来たら、それで決まりです。ですから、これらすべては、キリスト・イエスに信仰を置くすべての人々に、神が公正で、また義であられることを示します。しかし、何です? 何の時間かご存知でしょ? 泣くより笑わないとね。主を知らないあなたは、義とされるお方によって現在、義とされてはいません。これは控えめに言っても大きな問題です。あなたは義とされるか、それとも非難の中に生きるかのどちらかだからです。そして、それが私たち全員がそうだった状態です。私たち全員がその状態に生まれたのです。私たちが何をしようとも、自分自身では、神の御目から見て義とされるまでにはなれません。でも、神がご存じなかったわけではありません。ええ、神は全てご存知です。そしてこれが、私たちが論じたように、主の救いの義が常に主のご計画の一部であった理由です。私たちが主の義を必要とする理由は、私たちは皆、罪の中にあって不義で、罪が私たちを神から引き離すからです。主の義によってのみ、私たちは初めから失われた神との関係を持つことができます。そして、その関係は、御子を通して確立されます。そうして、生ける神と常に交わることができます。これが私たちがいるべき場所です。私たちが罪深い状態にとどまることを選ぶなら、罪のうちに死んでしまうからです。罪は永遠の滅びにつながる死刑です。イエスを信じることによってのみ、私たちの罪は赦され、永遠のいのちが与えられます。ですから、今日、「イエス・キリストの福音」によってイエス・キリストを選ぶことを強くお勧めします。「イエス・キリストの福音」とは、聖書に書いてある通り、キリストが私たちの罪のために死なれ、葬られ、3 日目によみがえられたことです。(第一コリント 15 章 1~4 節参照)

救われるのは、ABC くらいシンプルです。

B : Believe/信じる。

救われるための中心テーマです。でもまず

A : 自分は罪びとだと、救い主が必要だと Acknowledge/認める。

ーローマ人への手紙3章10節ー

義人(正しい者)はいない。1人もいない。

ーローマ人への手紙3章23節ー

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

考えてみてください。エベレストに登って、星に手を伸ばしても、届きません。

ーローマ人への手紙6章23節ー

罪の報酬は死です。しかし神の賜物(贈り物)は私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

それがAです。Bは、すべての中心 B : Believe/信じる。Cは、C : Confess/ (口で)告白する。

どちらも、同義で、「ローマ人への手紙10章9節10節」にあります。

ーローマ人への手紙10章9節ー

あなたの口でイエスは主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。

ーローマ人への手紙10章10節ー

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

これは、いつも言っているように、救われ、罪の問題をきっぱりと解決する最もシンプルな方法です。神は私たちが愛しておられるから、私たちと和解するのを望んでおられます。御言葉で具体的に仰せられます。

ーIIペテロ3:9ー

主は、ある人たちが遅れていると知っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

あなたが数秒前まで救われていなくても、イエス・キリストの血によって、今、あなたが救われたのを願います。神の救いの義を活用し神の恵みに応える人生を求めてください。そうすれば、他の人たちもあなたを見て、同じように救われたいと思うでしょう。ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様、あなたの真理の御言葉に改めて感謝します。とても素晴らしいです。私たちはあなたの御言葉に十分応えることができません。私は祈ります。私たちがそれぞれの帰路についても、あなたが今日話されたことすべてを持ち帰り、自分の人生に適応し、あなたのご栄光のために、主よ、あなたの証人となりますように。良き使節、良いクリスチャンになって、あなたを喜ばせる人生を送りますように。ですから主よ、私たちがそのようになるために必要なことは何でもなさってください。人生はあまりにも短いからです。私たちは、あなたがまもなく来られることを知っています。神の働きを忠実にしているところを見つけていたいただきたいのです。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7